

# vRealize Easy Installer を使用した vRealize Automation のインストール

2022 年 2 月 15 日

vRealize Automation 8.7

最新の技術ドキュメントは、VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>)

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴィエムウェア株式会社**  
〒108-0023 東京都港区芝浦 3-1-1  
田町ステーションタワー N 18 階  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

Copyright © 2022 VMware, Inc. All rights reserved. 著作権および商標情報。

# 目次

## 1 vRealize Easy Installer の機能 4

システム要件 5

SaltStack Config の要件 8

## 2 vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager の実行方法 9

vRealize Automation 用の Easy Installer を使用した vRealize Suite Lifecycle Manager および VMware Identity Manager のインストール 10

VMware Cloud に VMware Lifecycle Manager インスタンスを設定する方法 11

vRealize Identity Manager のインストールと構成 13

vRealize Automation のインストールおよび構成 15

vRealize Suite Lifecycle Manager の移行 16

## 3 インストール済みアプリケーションを起動する方法 18

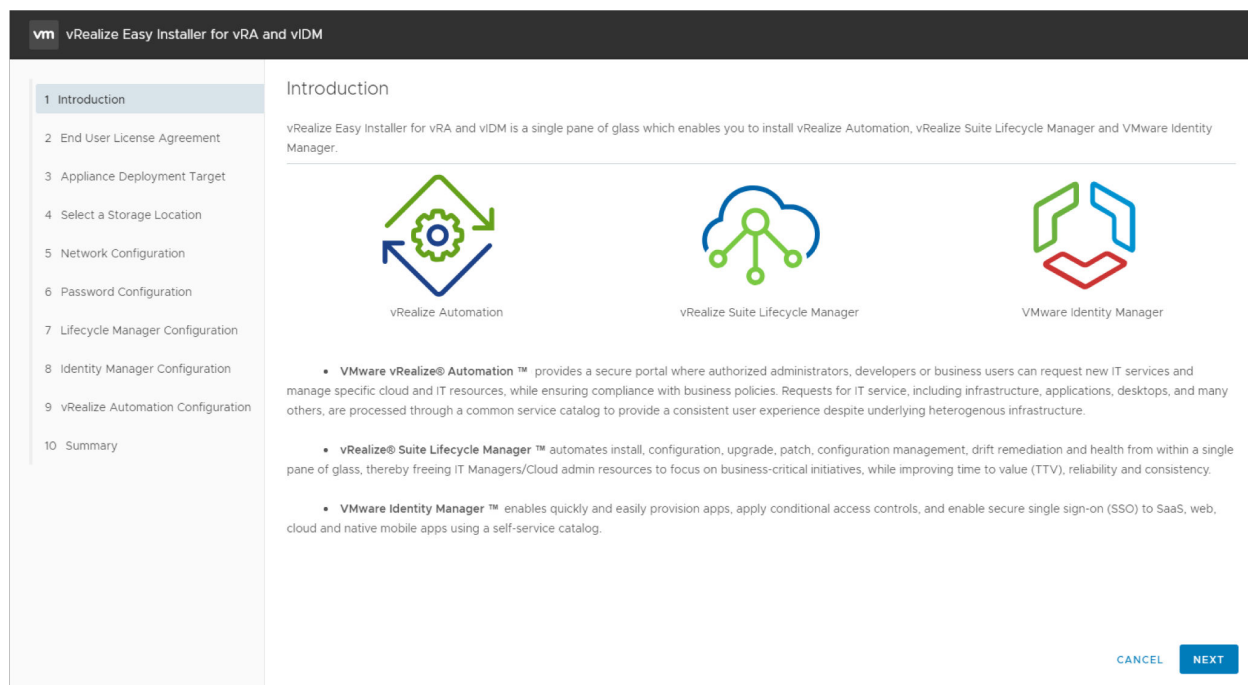
## 4 インストール後のタスク 20

# vRealize Easy Installer の機能

1

vRealize Automation と VMware Identity Manager 用に VMware vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer を使用すると、vRealize Automation と Workspace ONE Access を製品別にインストールする時間に比べて、短時間でインストールできます。

このガイドの手順では、vRealize Easy Installer を使用して、vRealize Automation、vRealize Suite Lifecycle Manager、および Workspace ONE Access をインストールして展開する手順について説明します。



## [vRealize Automation]

vRealize Automation は最新のインフラストラクチャ自動化プラットフォームであり、プライベート環境とマルチクラウド環境を VMware Cloud インフラストラクチャで実現します。セルフ サービス自動化、インフラストラクチャ向け DevOps、構成管理、ネットワーク自動化の機能を提供し、ビジネスと IT の俊敏性、生産性、効率性を向上させます。vRealize Automation を使用して、従来のインフラストラクチャ、クラウドネイティブ インフラストラクチャ、マルチクラウド インフラストラクチャを統合、効率化、および現代化し、IT を簡素化しながら、ビジネスの将来に備えます。

vRealize Automation のインストール、構成、管理、およびアップグレードは、vRealize Suite Lifecycle Manager を介してのみ実行できます。

## [vRealize Suite Lifecycle Manager]

vRealize Suite Lifecycle Manager は、vRealize Suite 向けにアプリケーションのライフサイクルおよびコンテンツの包括的な管理ソリューションを提供し、価値の提供までの時間を迅速化し、継続的な管理を最小限に抑え、エンド ユーザーの生産性を向上させます。

また、vRealize Easy Installer は、vRealize Suite Lifecycle Manager インスタンスを移行できます。

## [VMware Identity Manager]

VMware Identity Manager (Workspace ONE と呼ばれる) は、アクセス コントロール、アプリケーション管理、マルチプラットフォーム エンドポイント管理を単一のプラットフォームに統合し、クラウド サービスまたはオンプレミス展開として利用できます。

**注：** [構成] タブの上部にある [インストールのスキップ] ボタンを選択することで、Workspace ONE と vRealize Automation の個別のインストールにスキップできます。

この章には、次のトピックが含まれています。

- システム要件
- SaltStack Config の要件

## システム要件

vRealize Automation と VMware Identity Manager をインストールするには、次のシステム リソースが必要です。

vRealize Easy Installer サポート

- vRealize Automation 8.0.0 以降。
- vRealize Suite Lifecycle Manager 8.0.0 以降
- VMware Identity Manager 3.3.1 (インポートの場合のみ) 以降。

**注：** vRealize Automation 8 は、ESX > ESX > vRA などのネストされた仮想環境をサポートしません。

要件	vRealize Suite Lifecycle Manager	VMware Identity Manager	vRealize Automation	
			中規模プロファイル	大型プロファイル
合計ディスク サイズ	78 GB	100 GB	246 GB (単一ノードのインストールの場合のみ)	246 GB (単一ノードのインストールの場合のみ)
仮想 CPU	2	8	12	24
メモリ/RAM サイズ	6 GB	16 GB	42 GB	96 GB

要件	vRealize Suite Lifecycle Manager	VMware Identity Manager	vRealize Automation	
最大ネットワーク遅延			各クラスター ノード間で 5 ミリ秒	各クラスター ノード間で 5 ミリ秒
最大ストレージ遅延			任意の vRA ノードからのディスク I/O 処理ごとに 20 ミリ秒	任意の vRA ノードからのディスク I/O 処理ごとに 20 ミリ秒

**注：** vRA のシステム要件は、単一ノード環境向けです。ノードが 3 台の HA vRA 環境の場合は、要件を 3 倍にします。

構成の制限の詳細については、[VMware Configuration Maximums tool](#) を参照してください。

## ハードウェア要件

Workspace ONE Access の仕様は、ディレクトリ内のユーザー数に基づきます。詳細については、[システムとネットワークの構成の要件](#)を参照してください。

**注：** Lifecycle Manager を使用して Workspace ONE Access のハードウェアのサイズを変更する方法については、[Hardware Sizing for Workspace ONE Access](#) を参照してください。

## ロード バランサの要件

ロード バランシング ガイドには、次の構成に関する情報が含まれています。

- NSX LB
- F5 LB
- Citrix NetScaler LB

詳細については、[vRealize Automation のロード バランシング](#)を参照してください。

## ネットワーク要件

vRealize Automation には次が必要です。

- 単一の固定 IPv4 アドレスとネットワーク アドレス
- 手動で設定された到達可能な DNS サーバ
- DNS サーバを介して正引きと逆方向の両方で解決できる、有効な完全修飾ドメイン名を手動で設定します

## ポートおよびプロトコルの要件

vRealize Automation は、ポート 443 を使用してアクセスされます。443 ポートは、インストール時に生成される自己署名証明書で保護されます。外部のロード バランサを使用している場合、ポート 443 で負荷が分散されるように設定する必要があります。次の表は、vRealize Automation の構成に使用されるポートとポート番号の概要です。vRealize Automation のポートおよびプロトコルの詳細については、[VMware Ports and Protocols](#) を参照してください。ここで、さまざまな VMware 製品のポート情報を単一のダッシュボードで表示し、選択したデータのオフライン コピーをエクスポートできます。

プロトコル	ポート番号
TCP	80
TCP	443
TCP	2379
TCP	2380
TCP	6443
TCP	8008
TCP	10250
TCP	16000
TCP	20849
TCP	30333
TCP	30821
TCP	31090
UDP	500
UDP	4500
UDP	8285
ESP	
AH	

表 1-1. 製品および統合通信のポートの要件

製品または統合	TCP ポート番号
vRealize Automation アプライアンス	5480、443、22
Identity Manager アプライアンス	8443、443、 9999、9898、9000、9694（クラスタにこれらを使用）
vCenter Server インスタンス	443
ESXi ホスト インスタンス	443

ポートの詳細については、[vRealize Suite Lifecycle Manager Ports](#) を参照してください。

## SaltStack Config の要件

SaltStack Config を vRealize Automation 環境で使用する前に、次の要件に合わせる必要があります。

SaltStack Config の vRealize Automation 環境での使用は、オプションです。

SaltStack Config を使用すると、イベント型の自動化を使用して、任意の規模で仮想マシンにソフトウェアをプロビジョニング、構成、展開できます。また、SaltStack Config を使用することで、要件に準拠した最適なソフトウェア状態を定義し、環境全体に適用できます。SaltStack Config の詳細については、[vRealize Automation での SaltStack Config の使用](#)を参照してください。

SaltStack Config を使用するには、次の手順を実行します。

- vRealize Automation で、SaltStack 統合の FIPS モードを無効にします。
- SaltStack を vRealize Suite Lifecycle Manager から展開します。LCM からの SaltStack の構成と展開の詳細については、[Configure Product Details](#) および [Create a New Private Cloud Environment Using the Installation Wizard](#) を参照してください。



# vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager の実行方法

## 2

vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager は My VMware ダウンロード画面からダウンロードできます。

### 手順

- 1 My VMware ダウンロード画面から vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager をダウンロードします。
- 2 ファイルをダウンロードしたら、vra-lcm-installer.iso ファイルをマウントします。
- 3 CD-ROM 内の vrlcm-ui-installer フォルダを参照します。
- 4 このフォルダには、3 つのオペレーティング システムの 3 つのサブフォルダが含まれています。使用しているオペレーティング システムに基づいて、vrlcm-ui-installer フォルダ内の対応するオペレーティング システム フォルダを参照します。
- 5 フォルダ内のインストーラ ファイルをクリックします。

オペレーティング システム	ファイル パス
Windows	lcm-installer\vrlcm-ui-installer\win32
Linux	<ul style="list-style-type: none"><li>a Linux 仮想マシンにログインします。</li><li>b apt-get install p7zip-full を実行します。</li><li>c 7z x vra-lcm-installer.iso を実行します。</li><li>d chmod +x vrlcm-ui-installer/lin64/installer を実行します。</li><li>e chmod +x を実行します。/vrlcm/ovftool/lin64/ovftool* を実行します。</li><li>f apt install libnss3 を実行します (libnss3 コンポーネントがインストールされていない場合のみ必須)。</li><li>g vrlcm-ui-installer/lin64/installer を実行します。</li></ul>
Mac	vrlcm-ui-installer/mac/Installer

vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager のユーザー インターフェイスはオペレーティング システムに対して固有です。有効なユーザー インターフェイス フォルダ パスを使用してインストーラを実行していることを確認します。

## 結果

これで、vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager を使用してアプリケーションをインストールできるようになりました。

vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager の起動に失敗して、「インストール中に問題が発生しました。インストーラのログを確認して、再試行してください」というエラー メッセージが表示された場合、原因は次のとおりです。

- インストール中にホストが再起動しました。健全な状態に戻るには、ホストを選択します。
- インストール中にデータストアが 100% フルの状態でした。データストア メモリをクリアして、Easy Installer の起動を再試行します。
- vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager を ESXi ホストに接続できませんでした。ターゲット vCenter Server およびすべてのクラスタ関連 ESXi サーバの DNS FQDN エントリをシステム ホストのファイル `C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts` に追加します。Linux および Mac の場合は、`/etc/hosts` です。

## vRealize Automation 用の Easy Installer を使用した vRealize Suite Lifecycle Manager および VMware Identity Manager のインストール

vRealize Suite Lifecycle Manager は、vRealize Automation および VMware Identity Manager 用の vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer を使用してインストールできます。



vRealize Suite Lifecycle Manager [Installation with Easy Installer](#) ビデオをご覧ください。

### 前提条件

vRealize Suite Lifecycle Manager をインストールする前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- vCenter Server がセットアップされていて、認証情報にアクセスできることを確認します。
- vRealize Automation のネットワーク構成の詳細がわかっていることの確認
- Lifecycle 仮想アプライアンス展開の詳細がわかっていることの確認

### 手順

- 1 [vRealize Easy Installer] ウィンドウで [インストール] をクリックします。
- 2 概要を読んだ後、[次へ] をクリックします。
- 3 使用許諾契約書に同意し、[次へ] をクリックします。[カスタマー エクスペリエンス向上プログラム] を確認し、チェックボックスをオンにしてプログラムに参加します。

- 4 vCenter Server の詳細を指定するには、[アプライアンス展開ターゲット] タブに入力します。
  - a [vCenter Server のホスト名] を入力します。
  - b [HTTPS ポート] 番号を入力します。
  - c [vCenter Server ユーザー名] および [パスワード] を入力します。
- 5 [次へ] をクリックして、証明書の警告が表示されたら、[承諾] をクリックして続行します。
- 6 仮想アプライアンスを展開する場所を指定する必要があります。
  - a vCenter Server ツリーを展開します。
  - b 任意のデータセンターが表示されるまで展開し、展開を特定の仮想マシン フォルダにマッピングします。
- 7 [コンピューティング リソースの選択] タブでリソース クラスタを指定します。
  - a 適切なリソース場所が表示されるまでデータセンター ツリーを展開し、[次へ] をクリックします。
- 8 [ストレージの場所の選択] タブで、展開を保存するデータストアを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 [ネットワーク構成] タブと [パスワード構成] タブの必須フィールドに入力し、[次へ] をクリックして、[ネットワーク] と [パスワードの構成] をセットアップします。
  - a vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想マシンについて、アプライアンスの [NTP サーバ] を入力し、[次へ] をクリックします。

すべての製品用に提供されるネットワーク構成は、構成設定の 1 回限りの入力です。指定したパスワードもすべての製品で共通するため、製品のインストール中にパスワードを再入力する必要はありません。

パスワードには、大文字、小文字、数字、特殊文字を 1 つ以上含める必要があります。使用できる特殊文字は !@#\$%^&\*() です。コロン (:) は、vRealize Automation 8.0 および 8.0.1 のパスワードではサポートされていません。
- 10 vRealize Suite Lifecycle Manager 構成を設定します。
  - a [仮想マシン名]、[IP アドレス]、および [ホスト名] を入力します。
  - b 構成情報を指定します。[データセンター名]、[vCenter Server 名]、および [ディスク サイズの拡張] フィールドに入力します。
  - c 必要に応じて、[FIPS モードへの準拠] を有効または無効にします。
  - d [次へ] をクリックします。

#### 次のステップ

これで、Workspace ONE Access のインストールを開始できます。

## VMware Cloud に VMware Lifecycle Manager インスタンスを設定する方法

Easy Installer を使用して、AWS などの LCM インスタンスを VMware Cloud に設定できます。

デフォルトでは、VMware Cloud にはクラスタとオブジェクトを含む 1 台の vCenter Server が含まれます。Easy Installer を使用して、VMC に LCM インスタンスを設定できます。VMware Cloud を使用して、Software-Defined Data Center (SDDC) を設定できます。デフォルトでは、Compute-ResourcePool と管理仮想マシンおよび Workloads フォルダのみを使用できます。仮想マシンを展開するには、すべての展開を Workloads フォルダの下と WorkloadDatastore で構成します。

**注：** Easy Installer では、VMC vCenter Server 上の LCM から 8.2 への移行はサポートされていません。新しい LCM インスタンスをインストールして構成する必要があります。

## 手順

- 1 Easy Installer のアプライアンス展開先のタブに移動します。
- 2 ユーザー名としてクラウド管理者アカウントを使用して、VMC vCenter Server の詳細を入力し、[次へ] をクリックします。

**注：** 必要なユーザー ロールと権限が画面で強調表示されます。

**注：** デフォルトでは、VMC vCenter Server クラウド管理者アカウントが、vCenter Server のインベントリにアクセスできる唯一のユーザー アカウントです。

- 3 場所の選択タブで、ワークロードを選択し、[次へ] をクリックします。
- 4 [コンピューティング リソースの選択] でクラスタを選択し、[次へ] をクリックします。
- 5 ストレージの場所として WorkloadDatastore を選択し、[次へ] をクリックします。
- 6 [ネットワーク構成] タブと [パスワード構成] タブの必須フィールドを入力し、[次へ] をクリックして、[ネットワーク] と [パスワードの構成] をセットアップします。
  - a vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想マシンについて、アプライアンスの [NTP サーバ] を入力し、[次へ] をクリックします。

すべての製品用に提供されるネットワーク構成は、構成設定の 1 回限りの入力です。指定したパスワードもすべての製品で共通するため、製品のインストール中にパスワードを再入力する必要はありません。

パスワードには、少なくとも 1 つの大文字、1 つの小文字、1 つの数字、および 1 つの特殊文字を含む必要があります。使用できる特殊文字は !@#\$%^&\*() です。コロン (:) は、vRealize Automation 8.0 および 8.0.1 のパスワードではサポートされていません。

## 7 vRealize Suite Lifecycle Manager 構成を設定します。

- a [仮想マシン名]、[IP アドレス]、および [ホスト名] を入力します。
- b 構成情報を指定します。[データセンター名]、[vCenter Server 名]、および [ディスク サイズの拡張] フィールドに入力します。
- c 必要に応じて、[FIPS モードへの準拠] を有効または無効にします。
- d [次へ] をクリックします。

### 結果

VMC で LCM インスタンスが正常に構成されました。ただし、構成に失敗した場合は、次の構成が正しいか確認してから、構成を再試行してください。

- ユーザー ロールと権限が正しくありません。必要なロールと権限については、[vCenter Permissions](#) を参照してください。
- 選択したリソースが正しくありません。構成では、ComputeResourcePool、ワークロード フォルダ、およびワークロード データストアのみを選択して使用できます。

## VRealize Identity Manager のインストールと構成

vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and vRealize Identity Manager を構成しているときに、vRealize Identity Manager の新しいインスタンスをインストールしたり、既存のインスタンスをインポートしたりできます。

VMware Identity Manager の構成（標準モードまたはクラスター モードの VMware Identity Manager、カスタマイズ モードのネットワーク、ストレージの展開が含まれる）をカスタマイズする場合、VMware Identity Manager のインストールをスキップすることができます。スキップした場合でも、vRealize Suite Lifecycle Manager のユーザー インターフェイスで VMware Identity Manager を構成するように求められます。

vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager を使用すると、既存の VMware Identity Manager を vRealize Suite Lifecycle Manager にインポートするか、VMware Identity Manager の新しいインスタンスを展開することができます。VMware Identity Manager のハードウェアのサイズ変更の詳細については、[ハードウェアのサイズ変更](#)を参照してください。

### 前提条件

構成を開始する前に、固定 IP アドレスがあることを確認します。

### 手順

- 1 新しいインスタンスをインストールするには、[新しい vIDM のインストール] を選択します。
- 2 [仮想マシン名]、[IP アドレス]、[ホスト名]、および [デフォルト構成管理者] の下の必要なテキスト ボックスに入力します。

---

**注：** vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager は、デフォルトの構成管理者ユーザーを VMware Identity Manager のローカル ユーザーとして作成し、このユーザーを使用して製品を VMware Identity Manager と統合します。

---

### 3 既存のインスタンスをインポートするには、[既存の vIDM のインポート] を選択します。

- a [ホスト名]、[管理者パスワード]、[システム管理者パスワード]、[SSH ユーザー パスワード]、[root パスワード]、[デフォルト構成管理者]、および [デフォルト構成パスワード] を入力します。
- b VMware Identity Manager のグローバル構成のグループを追加するときに、[ユーザーがグループ メンバーを同期する場合は、ディレクトリにグループ メンバーを同期] を選択します。

vRealize Easy Installer for vRealize Automation and VMware Identity Manager 8.4 で行う操作	VMware Identity Manager のサポート対象バージョン	説明
vRealize Suite Lifecycle Manager の新規インストール	3.3.4 のみ	
vRealize Suite Lifecycle Manager のインポート	3.3.1、3.3.2、または 3.3.4	
vRealize Automation の展開	3.3.2	<b>注：</b> VMware Identity Manager 3.3.1 をインポートして、vRealize Automation 8.2 以降をインストールすると、インストールは失敗します。

**注：** シナリオが次のいずれかの場合、VMware Identity Manager はサポートされます。

- 組み込みの Postgres データベースを使用する単一またはクラスタ インスタンス。
- 指定した展開タイプの VMware Identity Manager 3.3.2 および 3.3.3。

**注：** シナリオが次のいずれかの場合、VMware Identity Manager はサポートされません。

- 外部データベース (Postgres/MSSQL など) を使用している単一インスタンスまたはクラスタ インスタンス。
- 組み込みのコネクタ以外の追加コネクタ (Windows および外部コネクタ) を持つ単一またはクラスタ インスタンス。
- VMware Identity Manager の以前のバージョン。(3.3.0 以前のバージョン)

**注：** 古いバージョンの vRealize Suite Lifecycle Manager に VMware Identity Manager が含まれていない場合は、インストールまたはインポートすることができます。インポートされた VMware Identity Manager がサポート対象のフォーム ファクタに収まっていない場合、vRealize Suite Lifecycle Manager では VMware Identity Manager ライフサイクルおよび拡張された Day-2 機能はサポートされません。

旧バージョンの VMware Identity Manag (3.3.0 以前) から最新バージョンへのアップグレードは、これが Postgres データベースが組み込まれている単一インスタンスまたは vRealize Identity Manager ノードの場合のみサポートされます。

それ以外の場合は、vRealize Suite Lifecycle Manager の外部でアップグレードできます。アップグレード後は、vRealize Suite Lifecycle Manager でインベントリ同期をトリガすることで、いつでも再度インポートできます。

#### 4 [次へ] をクリックします。

vRealize Automation および VMware Identity Manager 用の vRealize Suite Lifecycle Manager Easy Installer を使用して VMC vCenter Server に vRealize Suite Lifecycle Manager VMware Identity Manager または vRealize Automation を展開できない場合は、管理者権限を持つ vCenter Server を使用して製品を展開します。

## vRealize Automation のインストールおよび構成

vRealize Easy Installer には、最小手順で vRealize Automation をインストールするオプションがあります。vRealize Automation のインストールは、オプションの手順であり、vRealize Automation の新しいインスタンスをインストールしない場合は、この手順を省略できます。

Lifecycle Manager を使用して vRealize Automation をアップグレードするには、[Upgrade vRealize Automation 8.x with vRealize Suite Lifecycle Manager](#) を参照してください。

vRealize Automation の構成を開始する前に、Easy Installer で最小またはクラスタ化された展開オプションが提供されます。

---

**注：** 8.1 以降、Workspace ONE Access のインストールをスキップするオプションがあります。スキップした場合は、vRealize Automation を構成できません。vRealize Automation を構成するには、戻って Workspace ONE Access を構成するか、vRealize Suite Lifecycle Manager ユーザー インターフェイスで vRealize Automation のインストールと構成を完了できます。

---

vRealize Automation のインストールはオプションであり、標準モードまたはクラスタ モードで展開できます。標準では単一ノードの vRealize Automation をサポートし、クラスタ モードではノード 3 台の vRealize Automation インストールをサポートします。

#### 前提条件

- 仮想マシンの固定 IP アドレス、ホスト名、および仮想マシン名を確認します。vRealize Automation には、インポートまたは新規インストールのために Workspace ONE Access 3.3.2 が必要です。OVA を介した vRealize Automation の手動インストールはサポートされていません。
- クラスタ展開用に外部ロード バランサが構成されていることを確認します。

#### 手順

- 1 vRealize Automation[環境の名前] を入力します。
- 2 vRealize Automation ライセンスで、[ライセンス キー] を入力します。
- 3 Workspace ONE Access 設定の構成後、vRealize Automation をインストールするオプションがあります。マスター ノードを使用する標準展開の場合は、vRealize Automation の [仮想マシン名]、[IP アドレス]、および [FQDN ホスト名] を入力します。手順 6 に進みます。

- 4 ノード 3 台を含むクラスタ展開の場合は、[ロード バランサ IP アドレス] と [FQDN] を入力する必要があります。

**注：** SSL の終端がロード バランサである場合は、[SSL はロード バランサで終了しました] チェック ボックスを選択します。ロード バランサで SSL パススルーが有効になっている場合は、このチェック ボックスを選択解除します。プロパティに誤った値が指定された場合、vRealize Automation の展開は失敗します。

- 5 クラスタ展開の場合は、ガイドラインとして手順 2 を使用してマスター ノードを作成します。
- 6 クラスタ展開の場合は、セカンダリ ノードを作成し、必要なテキスト ボックスに入力して続行します。
- 7 (オプション) vRealize Automation の高度な設定セクションで、内部ポッドとサービス サブネットの構成 (10.221.0.0/22 や 10.221.21.0/22 など) を選択して、K8S クラスタおよびサービス IP アドレス範囲を手動で入力できます。選択しない場合、vRealize Automation はデフォルト値である 10.244.0.0/22 と 10.244.4.0/22 を使用します。
- 8 [次へ] をクリックします。
- 9 入力したデータを含む [サマリ] 画面を確認し、[送信] をクリックします。

たとえば、インストール時間は、Workspace ONE Access および vRealize Automation 展開の送信元マシンから vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想アプライアンスへのバイナリのコピーに依存します。これは、ネットワーク速度によって異なります。

## 結果

詳細を送信した後、インストーラは vRealize Suite Lifecycle Manager のインストール、バイナリのコピーに約 30 分かかり、その後、ネットワーク速度に依存するインストール プロセスが開始します。vRealize Automation のインストール後、vRealize Log Insight の構成も開始できます。詳細については、『vRealize Automation の管理』の [vRealize Log Insight へのログ転送を設定する方法](#) を参照してください。

## vRealize Suite Lifecycle Manager の移行

Easy Installer を使用して、vRealize Suite Lifecycle Manager を移行できます。

vRealize Suite Lifecycle Manager Migration with Easy Installer ビデオをご覧ください。



Easy Installer を使用した vRealize Suite Lifecycle の移行  
([https://vmwaretv.vmware.com/media/t/video\\_LCM\\_migrate](https://vmwaretv.vmware.com/media/t/video_LCM_migrate))

## 手順

- 1 [vRealize Easy Installer] ウィンドウで [インストール] をクリックします。
- 2 概要を確認したら、[次へ] をクリックします。
- 3 使用許諾契約書に同意し、[次へ] をクリックします。[カスタマー エクスペリエンス向上プログラム] を読み、プログラムに参加するためのチェック ボックスをオンにします。



- 4 vCenter Server の詳細を指定するには、[アプライアンス展開ターゲット] タブに入力します。
  - a [vCenter Server のホスト名] を入力します。
  - b [HTTPS ポート] 番号を入力します。
  - c [vCenter Server ユーザー名] および [パスワード] を入力します。
- 5 [次へ] をクリックして、証明書の警告が表示されたら、[承諾] をクリックして続行します。
- 6 仮想アプライアンスを展開する場所を選択する必要があります。
  - a vCenter Server ツリーを展開します。
  - b 任意のデータセンターが表示されるまで展開し、展開を特定の仮想マシン フォルダにマッピングします。
- 7 [コンピューティング リソースの選択] タブでリソース クラスタを指定します。
  - a 適切なリソース場所が表示されるまでデータセンター ツリーを展開し、[次へ] をクリックします。
- 8 [ストレージの場所の選択] タブで、展開を保存するデータストアを選択し、[次へ] をクリックします。
- 9 [ネットワーク構成] タブと [パスワード構成] タブの必須フィールドに入力し、[次へ] をクリックして、[ネットワーク] と [パスワードの構成] をセットアップします。
  - a vRealize Suite Lifecycle Manager 仮想マシンについて、アプライアンスの [NTP サーバ] を入力し、[次へ] をクリックします。
- 10 vRealize Suite Lifecycle Manager 構成を設定します。
  - a [仮想マシン名]、[IP アドレス]、および [ホスト名] を入力します。
  - b 構成情報を指定します。[データセンター名]、[vCenter Server 名]、および [ディスク サイズの拡張] フィールドに入力します。
  - c [次へ] をクリックします。
- 11 [移行の詳細] タブで、移行元環境の詳細を入力し、[次へ] をクリックします。
- 12 [新規 VMware Identity Manager のインストール] または [既存の VMware Identity Manager のインポート] のいずれかを選択します。
  - a 新しい VMware Identity Manager をインストールする場合、VMware Identity Manager 構成を入力し、[次へ] をクリックします。
  - b 既存の VMware Identity Manager をインポートする場合、既存の VMware Identity Manager の使用に関するメモを確認し、[次へ] をクリックします。

---

**注：** 既存の VMware Identity Manager をインポートした後、これをバージョン 3.3.2 にアップグレードして、vRealize Automation 8.2 コンポーネントとの互換性を持たせる必要があります。

---

- 13 [サマリ] を確認して、[送信] をクリックします。

## 結果

vRealize Suite Lifecycle Manager が移行されます。

# インストール済みアプリケーションを 起動する方法

## 3

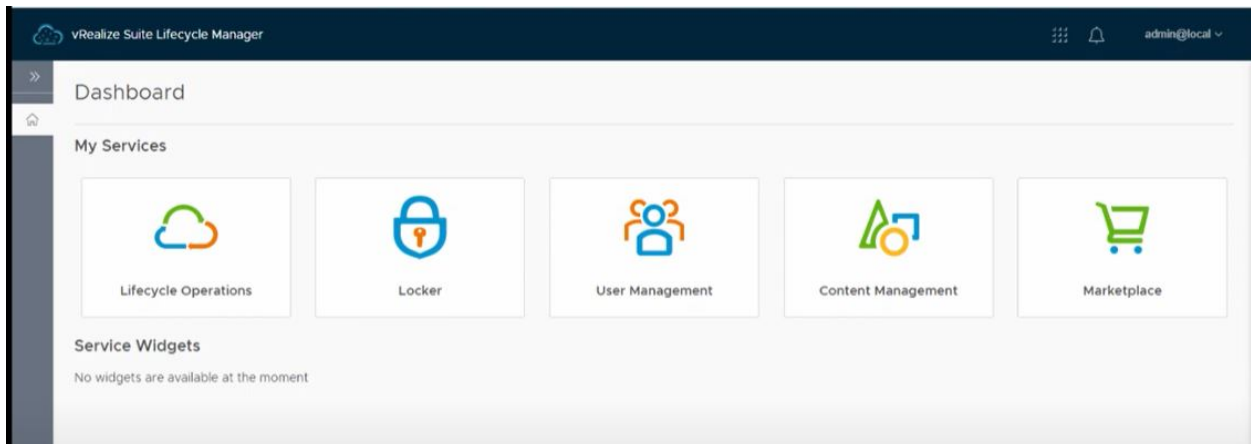
Easy Installer を使用してアプリケーションをインストールした後、展開されたアプリケーションとそのダッシュボードを表示できます。



インストール プロセス ウィンドウで IP アドレスをクリックすると、vRealize Suite Lifecycle Manager アプリケーションと vRealize Automation アプリケーションが開きます。

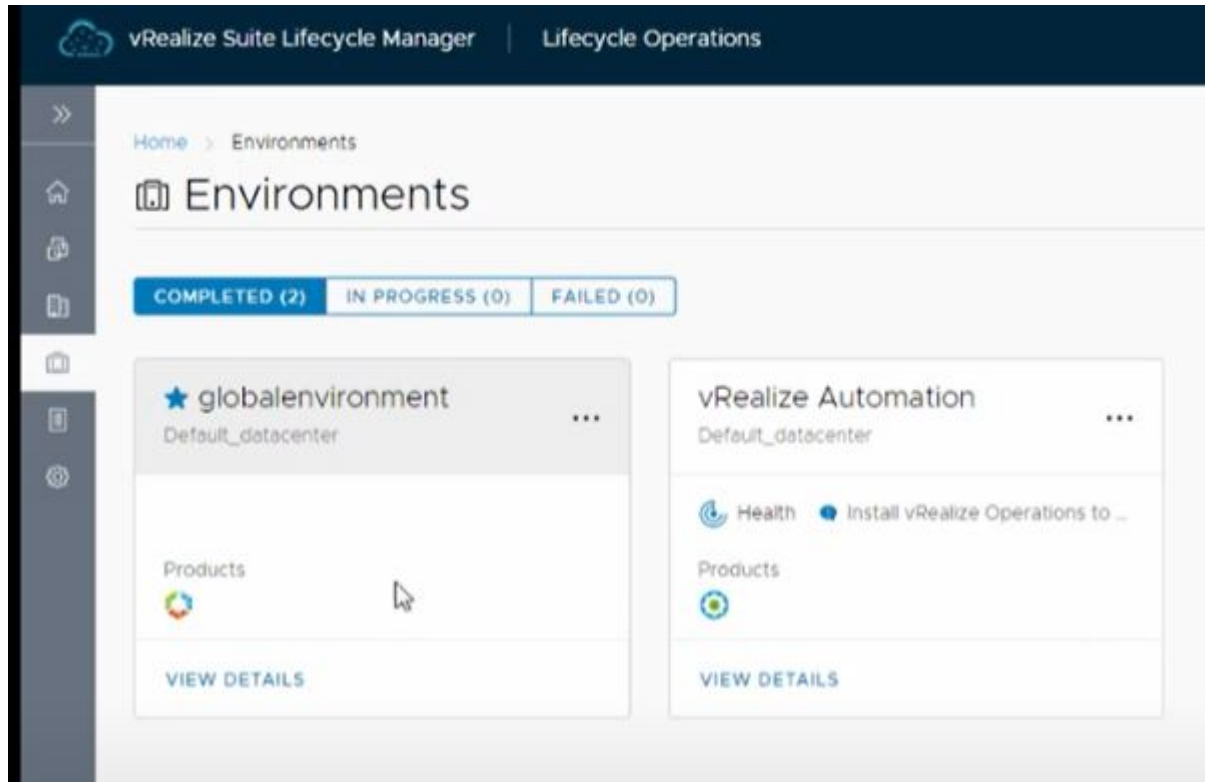
**注：** Linux OS で Easy Installer を起動した場合、インストール プロセス ウィンドウのリンクをクリックしても、ブラウザが開かない場合があります。URL を手動でコピーしてブラウザに貼り付け、目的のアプリケーションにアクセスします。

[vRealize Suite Lifecycle Manager]



インストール プロセス ウィンドウから IP アドレスをクリックした後、vRealize Easy Installer で入力したのと同じ認証情報を使用してログインします。要求を表示するには、[ライフサイクル操作] をクリックし、要求をクリックして詳細を開きます。要求レベルでは、要求の異なるステージと各ステージの所要時間を表示できます。

Workspace ONE Access アプリケーションおよび vRealize Automation アプリケーションの情報を表示するには、[環境] をクリックし、適切なアプリケーション タイルを選択します。



左側のペインで [申請] をクリックして、vRealize Suite Lifecycle Manager からの要求状態を監視することもできます。アプリケーション要求に障害が発生した場合は、障害の状態をクリックして詳細を表示します。障害の原因を特定して修正した後、[再試行] をクリックして要求を再試行するか、[再デプロイ] をクリックして環境を再デプロイします。

# インストール後のタスク

## 4

vRealize Easy Installer を使用してアプリケーションをインストールした後で、これらのインストール後のタスクを vRealize Suite Lifecycle Manager で実行できます。

システムのニーズと構成によっては、インストール後に次のタスクを実行する必要がある場合があります。

- vRealize Automation ライセンスを構成します。vRealize Suite Lifecycle Manager を介した vRealize Automation ライセンス構成の詳細については、[Configure License within Locker](#) を参照してください。
- vRealize Suite Lifecycle Manager に展開された製品の証明書を生成します。詳細については、[Generate Certificate within Locker](#) を参照してください。
- vRealize Suite Lifecycle Manager で Active Directory グループを構成します。詳細については、LDAP [Add Active Directory with Integrated Windows Authentication](#) と LDAP を介した [Active Directory](#) を参照してください。
- vRealize Easy Installer 外部で vRealize Suite Lifecycle Manager アプライアンス root パスワードを設定します。詳細については、[Configure your Password within Locker](#) を参照してください。
- vRealize Automation のライセンスを構成して置き換えます。詳細については、[Replacing of License](#) を参照してください。
- vRealize Automation のインストール後にインベントリ同期を実行し、vRealize Automation の現在の展開環境の状態を特定します。